

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田晴久
教育部会長 若林克彦
専務理事兼事務局長 清原 淳平

教育部会のお知らせ (第324回)

日時 平成28年4月22日(金) 午後1時半～3時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の教育問題について思う

挨拶 若林克彦部会長(国土館大学前学長)

2、日本大学危機管理学部が目指すもの

解説 福田弥夫日本大学危機管理学部初代学部長

報告 去る3月25日開催の第323回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事より、当日の講師・藤井輝夫東京大学生産技術研究所長の経歴紹介がありました。次に、若林部会長より開会挨拶がありました。中教審では、入学資格、カリキュラム、卒業資格の三つの方針について、目標の策定、実行、評価、自己点検による改革のサイクルを大学教育改革の方針として位置付けることが議論されている。3つの方針の策定のガイドラインを策定し、学校教育法施行規則を改正し、

認証評価項目を追加することが今後の課題である。

次に本日の講師・藤井教授より、「東京大学生産技術研究所の挑戦——時代の活力を担う研究所として——」と題して以下の趣旨の解説がありました。附置研究所という大学に併設された研究所があるが、その中でも日本最大級のものが東大の生産技術研究所である。創立は1949年で、生産に関する技術的諸問題の科学的総合研究と実用化を行っており、工学のほぼ全領域をカバーする。教員数160名、研究室163室、学部生、院生合計約2万6千名、年間総予算100億円である。半分は国からの委託や共同研究、半分は交付金や補助金などで占められている。研究成果としては、古くは日本の宇宙開発技術の草分けとなり、また大型溶鋳炉の実証実験を行った。現在の成果としては、世界初となる体内埋め込み式血糖値センサー、三次元微小血管などがあり、また海洋探査システムも基盤技術の一つである。今後の展望としては、産業界からは、高度人材の養成と言う要望がある。これに応えるためには、若手研究者の早期からの独立によって、新しい研究開発を推進することが必要である。また、小・中・高と連携し、早期から研究に興味を持たせる仕組みづくりも行われている。日本の強みはものづくりにあることは、創立当初からの精神にも込められている。この分野でいかに世界をリードして行くかが、生産技術の分野における課題だと言えよう。

その後の意見交換で、○日本の学生は学習時間が週1時間もない者が多いように感ずる。入学試験が目的化しないためにはどうするか。これは教員の質の問題だけではない。○理工系科目は特に、単位を取ったからと言って学習成果が出ているか分からない部分がある。等々の意見が出ました。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、4月22日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp